

「チーム担任制」Q&A（概要版）

令和6年4月

教員としての「個人としての指導力」の個人差・限界を補い、「集団・組織としての指導力」の向上を促す「チーム担任制」を紹介します。

学校が抱える課題は、「人材不足」「病休者の増加」「産育休補の不足」「勤務時間の超過」「不登校児童生徒の増加」「保護者対応」等、多様化・複雑化となっています。

学校課題の解決のために。学校課題や職員集団の実情に合わせて柔軟に、部分的に。他校の取組の良さをさまざま取り入れた独自性を出して……。選択肢の一つにはなりそうです。

東部教育事務所は、「固定担任制」であれ、「チーム担任制」であれ、自分とみんなのウェルビーイングの重なり合いを目指すこと、一人一人のエージェンシーの発揮を目指すことにつながるように、各学校の伴走者として、支援していきます。

東部教育事務所

導入に向けて…

Q1 導入すると、どのようなメリットがありますか。



A1 学校課題の解決を目指すことができます。

児童生徒には、主体性や自立など非認知能力を育むことを目指します。

教師には、授業の質の向上や児童生徒の多面的な理解を深めることができ、初任者や臨時教員へのフォロー、産育病休の際にも対応しやすくなります。



Q2 いつから、どのように準備するとよいでしょうか。



A2 1年をかけて準備をした学校、入学を機に毎年1年生に導入して3か年計画とした学校、前年度3学期に1週間交代制の試行期間を設定した学校など、さまざまあります。

校内では、チーム担任制の目的・内容を、学校運営上の核となる職員へ説明・理解を促し、学年主任から所属職員へ趣旨を伝達しました。

Q3 チーム担任制を行う上での「大きなポイント」は何ですか。



A3 柔軟な発想での体制づくりや学年主任のマネジメント力がポイントです。日々の情報交換等、職員の協働性、コミュニケーション力も必要です。

Q4 中学校が多いようですが、小規模校や小学校で取り組むことはできますか。



A4 小規模校では、全校チーム担任として、小学校では、教科担任制を行っているような中・高学年ならば可能です。低学年で試行した小学校もあります。

Q5 働き方改革につながりますか。



A5 チーム担任制だからこそ、校内人事を進めることができます。育児や急な家庭事情でも、チームで対応するために年休取得もしやすくなるなど、多様な働き方を実現できます。

具体的なシステムは・・・？

Q6 どのような仕組みですか。



A6 1学級1担任制ではなく、複数の教職員で複数学級を担当します。1週間や1か月など一定期間ののち、担任が交代します。

Q7 担任としての業務は、どのようなものですか。



A7 通常の学級担任と同様です。固定担任制とはそれほど変わらず、主に、朝の会、給食、清掃指導、帰りの会です。担当する週は、道徳、学級活動、総合的な学習の時間の授業を担当します。提出物、連絡ノートに対応も行います。

Q8 担任が交代する際には、どのように引継ぎをするのでしょうか。



A8 日頃から、担任した学級・児童生徒について職員室で情報交換をしたり、グループチャットで情報共有をしたりしています。特に引継ぎの場を設定することはありません。

Q9 通知表等は、どのように対応するとよいですか。



A9 学校に応じてさまざまな対応が可能です。
例えば、1名の職員が担当する生徒は、全学級にしているようにしています。所見を担当する生徒数は、固定担任制よりも少なく、業務の軽減ができます。各種書類の担任名には、学年所属の教職員全員を表記している学校もあります。

導入してみて・・・

Q10 児童生徒には、どのような変容がありましたか。



A10 生徒の主体性が伸びてきているようです。クラスづくりを自分たちでやってみようとするようになりました。担任の指示待ちでなく、自ら率先して動くことができるようになっていました。話しやすい教師に相談したり、多くの教師とのかかわりを楽しんだりしています。

Q11 保護者の声は、どのようなものがありますか。



A11 新しい取組のため、要望等がありますが、肯定的な意見も多数あります。進路選択を控えている中学3年生の保護者は、3年進級時のチーム担任制への変更・新規導入に対する不安の声があったようです。

Q12 教職員の「手ごたえ」はありますか。



A12 学級づくりについて学ぶことができ、多くの児童生徒とのかかわりをもつことができるようになりました。また、指導法等について相談しやすいです。生徒指導の対応が早くできる点もメリットです。

問題を一人で抱え込むことがなくなり、初任者・臨時教員等の指導力向上にもつながります。

※学校課題や状況により、さまざまな方法で学校独自の対応ができる可能性があります。

※詳しい取組について知りたい方、少しでも興味をもたれた方は、「チーム担任制」Q&A（詳細版）もご覧ください。